

令和7年度 倉敷市公民館等運営審議会議事録 要旨

〔開催日時〕 令和7年7月17日（木） 14:00～15:45

〔開催場所〕 ライフパーク倉敷 中ホール

〔出席者〕

委員：10名

赤木恒雄、浅野泰昌、浅原耕一、片山典子、川上富子、児玉あゆ子、百本恵子、森祥子、守屋弘志、山崎要

事務局：10名

生涯学習部：永野部長、兼田参事（兼ライフパーク倉敷所長兼市民学習センター館長）

ライフパーク倉敷：大平副参事（兼市民学習センター館長代理）

市民学習センター：角尾主幹、森下副主任、藤田主事

公民館：平松館長（倉敷）、岡本館長（水島）、守屋館長（玉島）、長鋪主任（児島）

傍聴者：なし

〔欠席者〕

委員：3名

清水正江、竹田照美、森垣達哉

〔議 事〕

1 開 会

・永野生涯学習部長挨拶

・委嘱状交付

・各委員自己紹介

・会長、副会長の選出

会長に赤木委員、副会長に浅野委員を選出

・開会宣言

委員の出席が過半数に達しており、審議会として成立していることを確認

赤木会長挨拶

会長を議長として議事進行することを確認

2 議 題

・議事進行の前に、議事録書名人を選任

赤木会長が片山委員、川上委員を指名、選任

(1) 令和6年度事業報告について

(2) 令和7年度事業計画について

(3) その他

3 閉 会

・浅野副会長挨拶

＜資 料＞

- 令和7年度倉敷市公民館等運営審議会資料
- 令和6年度倉敷市公民館等運営審議会議事録

＜参考資料＞

- 質問一覧
- 倉敷市公民館等運営審議会条例
- ライフパークEYE（市民学習センター講座広報誌）
- 学習へのいざない（公民館講座広報誌）
- 夏講座案内チラシ（公民館講座）
- SNSの紹介チラシ（YouTube（倉敷市e公民館）、インスタグラム（各基幹公民館））

〔議 題〕

（1）令和6年度事業報告について

（事務局説明概要）

※以下、特段の表記がない場合は、市民学習センター及び公民館28館を合算した状況

- （1）会議室等施設利用者数 459, 558人（前年度比4%増）
- （2）図書コーナー、図書室利用状況 132, 827人 図書貸出数 250, 226冊
- （3）倉敷公民館音楽図書室利用状況 2, 849人

※（1）～（3）については、前年度より増加しているものの、いまだコロナ禍前には及ばない。徐々に利用者数を取り戻している状況と考える。

- （4）公民館グループ登録数 557グループ登録（前年度より20減）
- （5）公民館講座
開講825講座 受講者数14, 466人（前年度比4%増）

- （6）公民館主催事業テーマ別講座開講数の一覧

テーマ2「健康福祉に関するもの」

- ・幅広い年代の関心の高い手話を学ぶ講座など

テーマ5「防災に関するもの」

- ・高校生とともに防災について考える講座など

テーマ7「情報化」

- ・高齢者向けにスマホ講座を複数の公民館で実施

- （10）Wi-Fiサービス提供について

令和5年度、基幹公民館（倉敷、水島）と地区公民館にWi-Fi使用環境を整備した。

市民交流センターに入っている児島公民館と玉島公民館は、市民交流センターが整備したWi-Fi環境を利用。統計上分類がないため、公民館利用者の利用状況は不詳。

倉敷公民館と水島公民館は、会議室・ホール利用者が利用できるWi-Fi環境を整備、令和6年度中272回の利用（1館当たり11回／月程度、前年度比4回／月増）。

地区公民館24館は、会議室等の利用者が使用できるモバイルWi-Fiルーター8台を各基幹公民館4館へ2台ずつ配備し、必要な地区公民館へ貸し出す形で運用。令和6年度中351回の利用（1公民館当たり1.2回／月程度、前年度比0.8回／月減）。

特に地区公民館での利用頻度が低い状況なので、今後積極的に利用していただくよう、広報の充実、モバイルWi-Fiルーターを活用したICT講座等に取り組んでいきたい。

(11) 公民館講座の倉敷市電子申請サービスでの申し込み開始について

令和6年度秋講座から、すべての公民館の講座申し込みが、従来のはがき、窓口での申請に加えて、倉敷市電子申請サービスでも可能となった。これは地区公民館24館に電子申請サービスの管理端末の配備が完了したことで実施開始したもの。

令和6年度は公民館全体の28館で6,427件の申し込みが電子申請で行われた。

今後も利用者の方に電子申請サービスの利便性を周知しながら、利用促進を図る。

(12) 事業総括について

公民館の事業では、地域課題の解決や地域づくりにつなげる事業の実施が増えている。地元の高校生とともに講座の企画運営を行う、高校生が小学生向けに講義を行うなど、世代間の地域交流を図る取り組みを始めている公民館も出てきている。

受講者アンケートでは、「地域課題へ関心を持つきっかけになった。」「他の受講者との意見交換ができてよかった」のほか、高校生が運営に携わった講座では、「若い世代の考えにふれることができ、参考になった。」「若い世代と交流できてよかった」等の回答あり。

参加者の意識を地域課題や持続可能な地域づくり、つながりづくりに向かわせる事業が徐々に実施できてきていると考える。

人権事業では、人権をテーマとした講座、地域住民と協働して行う事業を様々な形で行うことで、参加者の人権意識を高め、誰もが住みよいまちの実現に寄与できていると考える。

公民館の施設整備では、照明のLED化や電力供給設備の低圧化修繕、個別浄化槽から下水道への切替修繕等、老朽化した設備の修繕を、年度ごとに順番に各公民館を回って実施しており、施設、設備等の長寿命化に取り組んでいる。

(委員事前質問①)

本年は、日本遺産フェスティバルが倉敷で開催されるので、小学生、中高生を取り込みPRしているか。

(事務局回答①)

所管している日本遺産推進室に問い合わせたところ、10月25日(土)、26日(日)に開催される「日本遺産フェスティバル in 倉敷」については、地域と連携した取り組みを実施する中で、小中学生、高校生、大学生にも何らかの形で参加していただけるよう検討中とのこと。なお、市民学習センターでは、「日本遺産フェスティバル in 倉敷応援事業」を冠した講座「古代の色彩を楽しもう!～高粱のベンガラ染め体験～」を8月17日に開講する予定。受講対象者は5歳から中学生まで(保護者同伴)。

(委員事前質問②)

小中高と探究学習をやっているので、各基幹公民館・地区公民館で地域のことをもっとPRしたらいいか。

(事務局回答②)

地域のことを知る、地域の歴史を知る、地域に親しむことにつながると思われる講座について、令和6年度の実績では全公民館で41の講座が開催されている。小学生、中学生を対象とした講座としては少ないが、一方で高校生が主体的に関わる講座もいくつかある。今後も地元のことを知り、地元により親しむことにつながるような講座の充実を図っていきたい。

(委員事前質問③)

ライフパーク館内全体的に携帯電話がつながりにくいので、対策は？

(事務局回答③)

令和5年12月から令和6年1月にかけて、NTTドコモ、Au、ソフトバンクの主要3キャリア各社において携帯電波受信状況を調査している。結論から言うと、3社ともつながることはつながる。ただしドコモ以外は一部エリアで通話品質が悪くなく、対策が難しいところもある、と聞いている。市民学習センターで直接対策できないところで、利用者の皆様にはご不便をおかけしてしまうが、今後も主要3社と随時連絡調整を続けながら、対応を待つことになる。

(委員事前質問④)

(54ページ、55ページに掲載の「令和7年度倉敷市公民館主要講座一覧」のような形式で) 令和6年度の実践一覧が見たい。

(事務局回答④)

7つの主催事業テーマ別の講座実施回数については、4ページ(6)の「公民館主催事業テーマ別講座開講数」に全体の集計を掲載している。各館ごとの集計は取っていない。また、令和6年度の主要講座の実践内容については、6ページから28ページまでの「令和6年度事業報告」の各ページの内容をご覧ください。回答に代えさせていただきたい。

(委員事前質問⑤)

参加者が定員に近い講座の分析がない。参加者が定員の2分の1にも満たない講座の分析がない。次の開催の参考になるのでは？

(事務局回答⑤)

公民館から申し込み者数の情報を取得していないため、定員に対して実際の参加者が50%未満だったという結果は分かっても、申し込み時点で定員割れだったかどうか等の分析が困難。

その上で、令和6年度開講の825講座のうち、50%強の443講座が受講率100%を達成、一方で全体の10%に当たる84講座が定員の50%未満の受講率であった。

公民館は地域課題や行政課題について考えるようなテーマも取り上げる必要があり、ちょっとハードルが高いと感じさせてしまう内容の講座も企画しなければならない。ただし、そうした講座であっても、地域住民にとっては大切な学びの機会なので、参加を促すための工夫が必要なのだと考えている。ご意見を参考に、統計データの取得・分析を行い、市民の皆様のニーズに応えられる、より魅力的な講座づくりに努めたい。

(委員事前質問⑥)

倉敷市電子申請サービスでの申し込み件数は記載されているが、申し込み数全体の中で、その割合はどのくらいになるか？

(事務局回答⑥)

昨年度の同時期に比べると電子申請の件数は増加傾向ではあるが、公民館から申込件数の情報を取得していないため、電子申請からの件数割合が把握できていない。次年度以降、統計データの取得・分析を検討したい。

(委員事前質問⑦)

音楽図書室の広報活動はどのようにしているか？大学生など若い人は興味を持っていると思う(以前にも質問している)。

(事務局回答⑦)

音楽図書室の広報については、ホームページやInstagram等で、施設の案内やコンサート、講座・イベント情報の発信を行っている。特に若い世代が多く利用するInstagramについては、魅力的なチラシの作成・掲出により訴求力を高めるよう努めているところではあるが、利用者数自体は2,000人から3,000人の間で推移しており、決して右肩上がりでは伸びていない状況である。若い世代の音楽の楽しみ方が、ホール等に来て大勢で聴くスタイルから、スマートフォン等を使って個人で聴くスタイルに変容してきていることも影響があるかも知れないが、分析は難しい。

(委員事前質問⑧)

人権教育推進事業の参加者数は、平均で57.7人、人権学習推進事業の参加者数は、平均で94.1人である。参加者が多いが、どのように周知するのか？

(事務局回答⑧)

広報については、人権教育推進事業も人権学習推進事業も、基本的に各公民館のホームページで募集案内を掲載するほか、公民館の来館者に募集案内チラシを配布する方法で周知を図っている。人権学習推進事業については、各中学校区単位で組織された人権学習推進委員会が主体となって事業を行っており、各推進委員会で広報紙を発行しているので、広報の手段が少し多い。

平均参加人数に大きな差があるのは、人権教育推進事業が、募集人数の定員がある講演会等が事業の中心であること、一方で人権学習推進事業については、30ページで紹介し、308人が参加した「人権フェスタ庄」のような、参加人数の制限のない屋内外の行事等が含まれているため、と考える。

(委員事前質問⑨)

「協力団体と人数」欄で高校生1名などの講座があるが、どのような形での協力なのか？例えば、ボランティアとして学校単位で協力、個人で協力等。

(事務局回答⑨)

学生の協力は、講師が日ごろ学校等で指導している生徒に個人的に参加を呼び掛けている場合や、公民館から学校へ参加協力を依頼している場合がある。協力内容については、講座全般に渡る運営ボランティアのほか、講師を補助して直接技術的な指導をサポートする場合や、講座の企画・実施を通して主体的に参加する場合など様々な形で協力いただいている。

(委員)

公民館の予算で自主的にプログラムを作って開く主催講座は、住民の興味関心が高いテーマが多いこともあって、参加する人が多い。しかし、住民の興味のある講座ばかりでは公民館の講座としては不十分で、例えば防災などの地域にとって重要な課題が必ずあって、それは絶対に取り組まなければならない。人権もそういう課題の一つだと思うが、地域のさまざまな課題についての講座は、なかなか人が集まらないということがあるのに、人権の講座は参加者が多い。人権教育推進事業は平均57.7人、人権学習推進事業は平均94.1人が参加している。どのようなやり方で参加者を増やしているのか。

(事務局)

先ほどの人権教育と人権学習は分けないといけないが、人権教育の方は、講演会形式のものがほとんどである。参加者を増やす方法としては、一般的な方法として公民館窓口にチラシ等を設

置したり、ポスターを掲示したりしている。加えて、中学校区毎にある人権学習推進委員会の推進員に、個別に案内をしたり、人権学習の総会等で案内をしたりしている。また、音楽や書道、手編みといった公民館講座を受講した後に、同好の方たちが任意で集まって活動をする公民館グループというものがあって、そちらの方々に1人ずつ参加していただくよう協力依頼するなどして、人権教育講演会の参加者増を図っている。

一方人権学習の方は、基本的には推進員対象の行事が多く、それぞれの中学校区で人数は30人から50人ぐらいと異なるが、なぜ人数が多いかというと、地域全体の行事、例えば夏祭り等を人権学習推進委員会と一緒にやっているというものがあって、人数を大幅にかさ上げしているのではないかと考える。

(委員)

要は「すみませんけどお願いします」という形で、動員をかけて人数を増やしていく、というところもあるのか。

(事務局)

動員と言われれば動員ということでもいいのかもしれないが、公民館グループ毎に最低1人参加させて欲しいと要請しても、興味がある場合には、2人、3人と参加するグループもあるので、それぞれの団体で考えていただいているものと思っている。

(委員)

少し気になったのが、人権学習の範囲が、ものすごく広いので、テーマを何に持っていってもいいけれども、逆にどのテーマでも同じような話になるのではないのかな、という予断を持たれて、参加しない人がかなりいるのではないかと危惧する。

話は逸れるが、非常にテーマが幅広いので、公民館の活動として外国人のテーマを取り入れていくというのも一つのやり方なのかなと思う。

例えば、公民館で「日本語を教える」のもいいのかなと思う。

一つの手段として、地域の構成員である外国人のうち、日本語のできない子どもあるいは大人に対して、公民館で学習会をやっていく、という学びもあって良いのではないかと、思っている。

私事だが、外国にルーツを持っている子どもたちが、今どんどん入ってきていて、日本語ができない子もいっぱいいるので、そういった子どもたちに、日本語のある程度できる同じ国の留学生等と、インターネットを通じて話す場を提供する活動をしている。

日本人の先生と違って、分からないところを母国語でカバーできるので、子どもたちがものすごく気が楽になって、非常によく分かるようになる。また、学校で受けたストレスを、その先生方に言うことによって、ストレスの解消にもなっている。

ところが、個人のできる範囲では、なかなかマッチングがうまくいかない、というのがあって、こういったところも公民館とかいろんなところで、これからやっていかないといけないのではないかと、思っている。

今、倉敷も、総社も、岡山もそうだが、外国人がものすごく入ってきていて、そこで経済がかなり成り立ってきている実情があり、そのあたり、いかに地域のコミュニティがうまくできるのか、ということも含めて、一つの大きなテーマになるのではないかと、個人的には思っている。

(委員)

各公民館でやっている講座の中で、人気が高い講座、非常に特出した講座があると思う。特に防災に関する講座等で、お願いしたいことがある。

2018年の真備の災害については、本当に悲しかったなと思うのだが、それをバネにして、真備町の方は非常に防災への意識が高いなと思っていて、特に川辺地区では、黄色いタスキによる安否確認の意思表示をされている家庭が非常に多いと聞いている。

もうすでに1人家庭の高齢者の方が、非常に多くなっていると思うので、みんなで助け合っていこうという、そういったところも、各地域で意識づけのためにしていけば、と考えていて、そういった講座も、改めて各公民館で立ち上げていただければ、と思っている。

(委 員)

今、公民館に対して、ご質問みたいな形で「よろしくお願いします」ということだが、即答が難しいようなら、それは後日、またよろしく願いしたい。

今言われたのは、防災も含めて高齢者の問題。例えば高知では、避難の仕方、高齢者が玄関口まででいいから出て来てくれれば、一緒に連れて逃げられる、というようなことを行政でやっていて、テレビでも、ドラマ仕立てでやっている。

そういった動きを、そろそろ倉敷もやっておかないといけないのではないか。津波が3メートルと言われているので、いろいろと考えないといけないのではないか。

それは防災の方でやっているから公民館は関係ない、ではなくて、公民館も学習施設なので、住民にいかにそこら辺を伝えていくか。

その取り組みをやっていかないと、それは違う部署だ、と言うのではなくて、ただ個人的な学びをすればいいということでもなくて、それはやはり公民館の一つ課題なので、地域の課題として取り組んでいくのは、やはり公民館でやらないといけないことではないかなと、思う。

(事務局)

資料4ページの中に、「防災・防火・防犯・交通安全」というテーマで開講数が24あり、具体例の中で「防災教室 in 真備ふれあい公園」という講座を挙げている。さまざまな行政課題に対して所管部署と連携して「くらしき市民講座」を開講しており、その一つとして、真備公民館が防災推進課と連携して開講したものだが、防災の方から、「各地区の拠点として公民館があり、そこで防災に関する講座に取り組むことは、すごくありがたい」という声を聞いている。

さらに地域の高校生が間に入って、地域の人と触れ合う中で防災意識を高めようという講座なども開講している。委員がおっしゃったように防災の切り口としては防災推進課かもしれないが、地区の拠点となる私たち公民館が、地域の住民の中でそういった方たちをご案内する、そういったことはできると思うので、ぜひ今後ともやっていきたいと思う。倉敷市が今、真備の災害を教訓として、それを風化させない、とか、より防災に強いまちづくりを、ということで取り組んでおり、公民館としても基幹公民館をはじめ地区公民館で取り組んでいきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

(委 員)

資料の31ページから32ページに、「防災・防犯・交通安全」をテーマとした講座の開催実績があつて、かなりいろいろ考えてやっているんだなと思う。

防犯とか交通安全とかも入っているが、こういったものをますます広げて、他の課題なんかも意識付けしていけば、地域のそれぞれのうちでよくなっていくのではないかな。

具体例を挙げてくれているので、これからも頑張ってくださいと思う。

(2) 令和7年度事業計画について

(事務局説明概要)

- ・防災に関する講座、高校生と運営する講座、地域を知る講座などを予定している。
- ・一部の講座の様子は、インスタグラムを使って発信していく。
- ・配付のSNS紹介チラシには「倉敷市e公民館」等のQRコードを掲載しているので、登録をお願いしたい。
- ・魅力ある講座の企画ができることを目指し、公民館職員向けの「企画力向上研修」等を実施する予定。
- ・施設整備事業は、倉敷市公共施設個別計画に基づく「船穂公民館と船穂憩の家の複合化」のほか、照明設備のLED化、老朽化した施設・設備の改修等に取り組むことで、学びの拠点として、また人づくり、まちづくりの拠点として、施設整備を行い、利便性向上や、市の施設機能の充実を図っていくこととしている。
- ・情報紙「学習へのいざない」（年2回発行、7月19日(土)一般配布、委員には事前配付）
 - ・配布方法・・・全庁的な紙削減の方針等に伴い次のとおり変更
 - ・令和6年度まで⇒「広報くらしき」に折り込み全戸配布
 - ・令和7年度から⇒全戸配布終了。市内公民館、市の施設等の窓口に設置する形で配布
 - ・紙面内容・・・広報紙折り込み終了に伴い紙面を刷新
 - ・ページ数を12から24に増やす。
 - ・文字を大きくしたり行間を調整したりするなど、読みやすさを工夫
 - ・講座紹介文の項目を新たに掲載
 - ・公民館祭やおすすめ講座等の情報を新たに掲載
- ・市民学習センターでは、今年度、倉敷で開催される「日本遺産フェスティバル in 倉敷」応援事業の一環として、「古代の色彩を楽しもう！～高粱のベンガラ染め体験～」などの講座運営事業、倉敷市e公民館での動画配信、公民館の複合化事業等に取り組む。
- ・各公民館では、地域について学ぶ講座、情報格差の解消につなげるスマホ講座などを順次開講する。
- ・市民学習センターは、「ライフパークの集い2025」「第47回くらしきこどもまつり」等の開催を予定している。
- ・各公民館では、10月から11月にかけて、公民館祭を開催する予定である。

(委員)

7年度の事業計画の中でも、4月、5月、6月で開催されて、すでに終了している講座があると思う。

市民学習センターの主要講座で、項目2は、すでにもう受け付けを開始されたか。

また重井病院の植物園、久しぶりにこの名を見た。

市民の方もご存じのない方が非常に大勢いらっしゃるかと思うので、紹介も兼ねてしっかりPRをされたらよいかと思う。

いろいろ各公民館で主要講座ということで載せているので、受講される市民の方が何で講座を選ぶかということもちょっと興味もあるが、しっかりPRをしていただきながら、今後、公民館活動に従事していただければ、と思う。

(委員)

公民館のあり方というのが、やはり学びだけというイメージが私の中にはすごくあったのだ

が、今日ここに参加させていただいて、防災の意味とか、地域の課題をみんなで考えようとか、そういうところに公民館の位置付けがあるのだな、というのが分かって、すごく参加してよかったと思う。

それから、公民館のイベント等の向上に向けて、公民館の皆さんの企画力向上を図る研修を、これからも引き続きやっていくというお話であったが、やはり若い人たちがより参加できる場があったらいいな、と思う。

若いお母さんたちも子連れで来てくれたり、参加できる場所があったりしたらいいな、と思っていて、昨年度の審議会でも話題になったが、お母さんたちは子どもがいたら参加できないので、託児を設けたりしながら若い人たちも公民館に来る、という場が増えたらいいな、とすごく思っている。

それが、これからの地域を支えていく若い人たちが、地域にこういうことがあるんだっていうのを知る機会にもなるのかなと思う。

実際、選挙に行くとか、何か町内会の役員したときに、その町内の会議で公民館に行く程度の利用なのではないかと思う。

そんな中で、参加する魅力あるイベントが、やはり必要だと思う。

講座等の写真を見せてもらっても、どちらかというと、失礼だが高齢者の方の参加が多いのかな、と思うし、20代30代の、その地域に住んでいる方たちが参加するイベントって、夏休みぐらい、まずは親子で参加できるものなのかな、と思う。

同じ企画が毎年あっても、そういうのはすごく人気があるから毎年されているのだろうな、というのが見えたので、それはそれで引き続きやっていけばいいのかなと思うが、実際参加した方が、こういうのをやって欲しいとか、どういうのに参加したいとか、何かもっと若い世代の人の声も聞きながら、要望を聞く機会とか、アンケートとかがあるのか、というのを知りたくて質問させていただいた。

(事務局)

市民学習センターで講座をするときに、受講者の方にアンケートで、どんな分野の講座に興味があるか、どういうことをして欲しいか、ということをして自由記述で伺っており、それを参考に、指導員も次の企画を考えたりしている。公民館でも全部の館が実施しているかどうかは把握できていないが、多くの館で同じようにアンケートを取っていると聞いている。

(委員)

関連して、参加者にアンケートを取るというのはいいのだが、公民館に来ない人たちの問題がある。来ない人たちに対して、公民館のニーズを掘り起こしていかなければいけない、という、それが地域の中にある公民館なので、来る人だけでOKですではなくて、来てない人を何とか呼び込む、ということをやらなきゃいけない。

ニーズがどこにあるのか、というのは、ちょっとお金がかかるかもしれないが、地域全体に対してどういう要求があるのかとか、要望があるのかとか、アンケートみたいなのをやらないといけないのかな、と感じている。

(事務局)

前の方たちの話からも、しっかりPRしていくことが大切。

また若い方とか、親子連れとかそういった方にも、幅広い年代の方に来ていただけるように、ということもあるし、来ていない人たちへのニーズの掘り起こし、ということでも、やはりまずは第一に公民館のことを知っていただく、公民館の講座内容、こんなことをしているということ

などを、地域の皆様にしっかり知っていただく、ということで、必要なPR、そこからまずやっていきたいと思っている。

(委員)

私はよくいろんなことで公民館を利用させていただいている。

必ず毎月入るチラシとか、講座案内とかをチェックしていると、割と夏休みは子ども、親子を対象にしたイベントが、もうほとんどという感じで、あと文化祭でも、公民館を利用しているグループさんなどが、その講座で培われたことを発表するなど、割と地域に公民館の活動を発信されているな、よく頑張られているなというふうには感じている。

54、55ページに載っている「倉敷市公民館主要講座一覧」でテーマ別にマルが付いているが、一般教養と子ども関係、それから健康福祉、多分このあたりが、参加申込が多くて抽選になって漏れた、みたいな、そんな感じだと思うが、講座を受講した後も、どういう講座を希望するかとか、そんな問いかけも必ずあるし、すごく、公民館、ありがたい存在だなあと感じている。

そんな感じで、多分、地域で利用していない方もいらっしゃるけれども、公民館はそれなりの発信があるのかな、と感じている。

(委員)

先ほど真備の防災講座について触れられた。

復興防災公園「真備ふれあい公園」が昨年(2019)の7月3日に開園、今年(2020)の7月3日に天皇皇后両陛下の行幸啓を記念する石碑が建てられた。南海トラフ地震に対しての防災講座、各公民館で防災推進課等からいろいろと助言をいただきながら開講していると思うが、各公民館で一度は真備町のふれあい公園に来ていただいて、防災学習をしていただけたらと思っている。

昨年は各自治会、民生委員等の団体、防災士の会などさまざまな団体から、約2,000人が防災学習に来られている。市内の各公民館の皆さんにも、是非ともふれあい公園に来ていただいて、防災学習をしていただきたい。

(委員)

資料の54、55ページ、主催講座の分野別テーマが1から8まである。

人権から健康、子ども、環境、ずっと最後に、一般教養とあるのだが、一覧を見て一般教養がやたらと多いと思う。

本来はもうちょっと、情報化なんかは地域課題としてあるのだろうが、いろんなところに課題があるはずだと思うのに、そういったところがなかなか、取り組めていないかなと思う。

難しい場合には、例えば基幹公民館の人たちが指導して、いろんなことをやるとか、何かそういった連携をとりながらやっていく、ということが必要なのではないかな、という気がする。

公民館の職員、地区公民館は、何人で構成されているか。

(事務局)

3人の館が多い。

(委員)

3人で絶えずいろいろなテーマで、毎回毎回主催講座をプランニングしていくとなると大変なので、どうしても前回のをやるとか、人がよく来たのをやるとか、人気があるものをやるとか、ということが多いのだろうと思うのだが、やはりその地区、その時々で、いろんな問題があると思う。

だからそういったものをしていくというのも、一つはいいことなのだろうと感じている。

昨年度の講座で、例えば31ページの一覧だと、「だまされないぞ！特殊詐欺の手口と対策講座」というのがあったりして、お金のからむ問題を始め、いろんなことが話題としていっぱい出てきて欲しいところである。

高齢者等の話題も含めて講座を開いていくとか、そうすれば、興味を持って人が集まって、来られるのではないかという気がしている。

絶えず、主催講座のテーマは変わっていったいいはずだろうと思う。

その地域、地域で必要なものがあるだろうから、そこを一つの目安として、やっていかれたら、いいのではないかと思っている。

(3) その他

(委 員)

昨年度、児島公民館では、人権学習推進事業として児島中学校の吹奏楽に演奏をしていただくことがあったが、その他には中学生との連携があまりできていないという話をこの席で伺っていたと思う。そういった中で、今年度、児島中学校の方で10月の4日、5日に防災キャンプをしようということになっていて、人権学習推進委員会の協賛というかそういった連携をとりたいなという話で企画書が出て、これから話を進めていきたいと考えている。一つ、中学校とそういう連携ができる予定なので、ご紹介しておきたいと思う。

以上を、令和7年7月17日開催の令和7年度倉敷市公民館等運営審議会議事録要旨とすることに同意します。

委 員 片 山 典 子



委 員 川 上 富 子

